

- 1、目指す学校像 一人ひとりを「特別な存在」として大切にす教育
校訓に基づく「本当の自分」を生きる教育

2、重点目標

1) 学校全般

○建学の精神「正・浄・和」に基づく「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

校訓「正浄和」の中でも、今年度は、特に「和」について考えを深め「本当の和を生きる」とはどういうことなのか、その意味の深さを日常の体験を通して考え、個々の心の成長につなげていく。

放送朝礼や、校長からの「手紙」、アッセンブリを通じて行ったアンケート調査から、生徒が「和」について真剣に考えている事がうかがえた。

困難を抱えた生徒に対応するときなど、教職員が一枚岩となって対応することが出来た。

=達成度 A

2) 教育

○コロナ禍において十分に実施のできなかった学習指導及び学校行事の充実を図った。

充実した学習指導と共に、学びを通して得られる喜びや発見が、自己の成長につながるよう指導し、生涯にわたって「最善のわたし」を追い求める姿勢の素地を作る。

行事においては、出来る限りコロナ以前の形態に戻し、生徒が明の星らしい行事を体験出来るよう工夫を行う。

日々の授業の準備において、教師一人ひとりが、同僚との議論を重ねつつ、真の学力の醸成に向けた教材研究を真摯に行う。

感染拡大を招くことなく、概ねどの行事においても、生徒は積極的に参加し、十分な達成感を得た。

=達成度 A

3) 広報

○明の星教育を広報する方法、特に学校見学会・説明会の充実を図る

明の星の目指す教育を、的確に広報し、教員一人ひとりがそのことを理解し、一体となって広報活動に努めることを通して、学校見学会や説明会並びに広報資料の充実を図る。

見学会、説明会のプログラムにおいては、従来と変わることなく、生徒の日々の学校生活とともに、明の星の教育の大切な部分を伝えることができた。

=達成度 A

4) 財務

○健全な財務管理を行う。

計画的な財務を実践し、財務目標の達成に努めた。

=達成度 A

5) 保護者

○明の星教育について保護者により理解をいただく。

保護者会等、明の星の教育を理解いただく機会を数多く提供し、保護者に十分な協力を得られるよう努めた。

=達成度 A

達成度 A ほぼ達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D 不十分

2023年度学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

学校関係者評価委員会

日 時 2024年3月31日

関係者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長

正和会 (保護者会) : 会長、副会長三名

※ 書面にて実施

1.

○校訓「正浄和」は、生徒がこれから生きていく支えとなるだけでなく、保護者にとっても大切な指針になると気づかされた。

○文化講演会で様々な視点から質問をする姿勢に、明の星の生徒の多様性と可能性を伺い知ることができた。

2.

○入学する以前より、学校長の明の星の教育についての「ニンジンさん、ごぼうさん、だいこんさん」のたとえ話が大好きだった。

人と比べずに自分に誇りを持って生きていられたら、どんな環境でも自分らしくいられると思う。

○明の星では良き友人にも恵まれ自分が何者であってもいいと、自信をもつことができていると思う。

そうした自己肯定感を育んでもらっていることを感謝している。

3.

○一貫して「本当の私を生きる」が教育の根底にあると感じた。

○偏差値やネームバリューにこだわりがちな進路指導も一切なく、本人が進みたい道を本人が探して、それを見守るスタンスが娘にとっては良かったと思っている。

4. 生徒間の競争がなく、どんなタイプの生徒でもみんな楽しく学校に通える環境が作られているのを感じ、とても良い教育だと思っている。

これからも変わらず継続してほしいと思う。

2023年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

【1、学校全般】

○建学の精神を支える「正浄和」に基づく「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

建学の精神を支える校訓「正・浄・和」を踏まえ「正」を支える概念として今年度は「和」の理解の深化を図った。生徒に対する対応などで学校教職員が一丸となって対応に当たる様子など、「和」の概念の実践ともいえるべき状況が見られた。それらは、放送朝礼や校長からの「手紙」として配布される資料や定期的に行われるアッセンブリを通して「和」の理解を図っていった結果でもあるが、アンケート調査からも生徒が「和」について理解を深めている様子をうかがうことができた。

【2、教育】

○コロナ禍において十分に実施のできなかった学習指導及び行事の充実を図る。

コロナ禍の十分な行事運営ができなかった数年からようやく以前までの行事形態に戻っての実施が可能になり、学校としても必要な感染症対策を行いつつblankがある中でも団結をして企画運営を行い、生徒は積極的な参加を行いおおむね達成感を得て一年間を終えることができた。

学習面においても、教員一人ひとりが生徒の自己実現のための学びについて議論を深め、学力の醸成に無得た教材研究を行い指導することができた。

【3、広報】

○明の星教育を広報する方法、特に学校見学会・説明会の充実を図る。

明の星の教育にとっての根幹となる教育理念を、広報に携わる教職員が理解し広報活動にたずさわられるよう資料の充実をはかった。見学会や説明会などの内容は大きくコンテンツを変化させることはせず、丁寧な説明内容を伝えていくとともに、動画やHPなどの時代に合わせた広報ツールを活用しつつ広報を行い、昨年とほぼ同様の出願者数が集まる結果となり、高いレベルの入試が行われることになった。

【4、財務】

○健全な財務管理を行う。

計画性のある予算と柔軟性を持った運用により健全な財務管理を行っていた。

【5、保護者】

○明の星教育について保護者への啓蒙を図る。

明の星の教育内容や学校の現状について、保護者会や正和会の行事などを通して保護者ができる限り理解を深めていけるよう活動をしていた。保護者と教職員の交流の場では相互理解を深めつつ、和やかに交流することができていた。

以上